技術・家庭科（家庭科分野）における資質・能力の育成

附属学校園は今次の研究主題として『21世紀を生き抜くための資質・能力を備えた子どもの育成』を掲げており、今年度はその１年次にあたり、「保育・各教科等における資質・能力の育成」を検討・整理した上で深い学びにつながる授業実践を目指している。

今年度、家庭科では、小学校で６月の『授業を語る会』と11月の『公開研究会』において、公開授業を行った。小学校家庭科の『Ｃ 快適な衣服と住まい』では、「(2) 快適な住まい方について，次の事項を指導する。　ア 住まい方に関心をもって，整理・整頓（せいとん）や清掃の仕方が分かり工夫できること。　イ 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり，快適な住まい方を工夫できること。」としている。

６月の『授業を語る会』では、「季節に合わせた快適な過ごし方を考えよう」という題材で、暑い夏を迎える時期に合わせて、夏を快適に過ごすために自分達ができることを考える、という授業実践を行った。指導要領のイにあたる題材である。

前時までに方法を考え、試し、把握しきれなかったことを調べる学習を終えており、最終的に工夫の仕方をまとめてメリット・デメリットをまとめながら自分の生活の中での活かし方を考えるのが本授業の内容であり、自分の生活に生かそうとする意欲や態度を高める姿が願う子どもの姿である。本題材を学習している期間、教室内には、実際に試したもののうち設置が可能であるすだれやよしず、カーテン、風鈴等を置き、普段の学校生活の中でその効果が実感できるよう、教師が工夫していた。

本時に向けた子ども達の学習の振り返り記述には、偶然かもしれないが、集合住宅タイプに住んでいる児童に、実生活への活用意欲の記述を書いた者がいなかった。児童達が暮らしている住宅の状況は非常に多様である。自宅の条件によっては活用方法が思いつきにくい・難しいことが考えられ、この点をどうフォローして行くかは１つの課題であると考えられる。

11月の『公開研究会』では、「自分の生活にピッタリ！手作り整とんグッズで快適に過ごそう」という題材で、授業実践を行った。こちらは、指導要領のアにあたる題材で、前時までに、生活の中の整理整頓の課題を見つけ、グッズの試し作りを済ませており、本授業では、実際に製作する前の試し作りを通して気付いたことをまとめる内容であった。

整理整頓の課題と製作するグッズを考える過程で実際に製作する物が変わった児童がいたとのことで、最終的に、全員が自分で使うグッズを製作することになったという。担当教師としては、家族で使えるグッズを製作する児童がいて欲しかったという思いもあったようだが、逆に考えると、課題を考える段階で児童にとって最も身近なところに課題を見出すことができたということであり、今後、それを家庭全体の課題へと視点を向けたり、中学生になった時により質の高い「問い」や「最適解」を導き出す学びへの一歩となったと捉えることもできる。家庭科では、知識・技能の習得がゴールではない。いくらよいグッズが作れたとしても、生活に活かされなければ単なる工作で終わってしまい、家庭科の学習とは言えない。整理・整頓、掃除というと、少し間違うと躾のようで面白くない内容になってしまう恐れがあるが、児童の様子を見る限り、楽しみながら学習できる題材だったのではないかと考えられる。また、ちょうど、世間では、モノを減らして使いやすい収納を考える暮らし方が注目を浴びており、家庭でも本学習が活かせる背景があるのではないだろうか。

技術・家庭科は生活に密着した教科である。その『生活』は、技術の進歩・日本社会のあり様・世界情勢等、様々な要因の影響を受け、大きく変化している。子ども達には急激に変化していく社会・生活に対応して行く資質や能力が求められることとなり、技術・家庭科の担う役割は非常に大きいと言える。

（共同研究者：島根大学教育学部人間生活環境教育講座，正岡　さち）